



Future Report 2025

2025.01.01 - 2025.12.31

フューチャー株式会社 TSE PRIME SECTION:4722



ごあいさつ

先進テクノロジーと独創的アイデアで、 未来価値を創造する

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

フューチャーは「経営とAIをデザインする」という経営戦略のもと、お客様の本質的な課題を解決し、未来価値を最大化することをミッションとしています。私たちは、多種多様な業種で培った知見と独自の知的財産(IP)を基盤に、最新のAIテクノロジーを社会実装することで、ビジネスや地域経済の構造的課題を打破してまいります。

現在、私たちは自社の全業務プロセスに最先端のAIを深く統合し、生産性の劇的な向上と自己変革を加速させています。この自ら体現した「AIによる圧倒的な付加価値」を、ソリューションとしてお客様へ還元していくことが、私たちのミッションです。

真のデジタルトランスフォーメーション(DX)とは、単なるIT化ではなく、AIと独創的なアイデアを融合させ、時代に即した新たな価値を創出し続けるプロセスに他なりません。

私たちは、あらゆるデータをリアルタイムで可視化する独自のアーキテクチャを用い、AIが自律的に最適解を導き出す次世代のシステムを実装します。これからも経営戦略からビジネスプロセスまでをシームレスにデザインし、企業や社会の変革を牽引することで、持続的な発展に貢献してまいります。

2026年3月



フューチャー株式会社
代表取締役会長

金丸恭文

2025年12月期の事業概況

2025年12月期のハイライト

01

連結売上高は
前期比8.8%増の
759億円

02

連結営業利益は
前期比10.3%増の
161億円

2025年12月期の連結業績は、売上高75,993百万円（前期比8.8%増）、営業利益16,176百万円（同10.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益11,712百万円（同13.5%増）となりました。

当期は、企業のDXによる業務改革をはじめ、生産性向上による深刻な人手不足への対応、国際情勢を踏まえたサプライチェーンの見直しなど、経営改革に向けた活発なIT投資が続いています。また、生成AI等を活用した新たなデジタルサービスの開発や業務効率化の動きも加速しています。

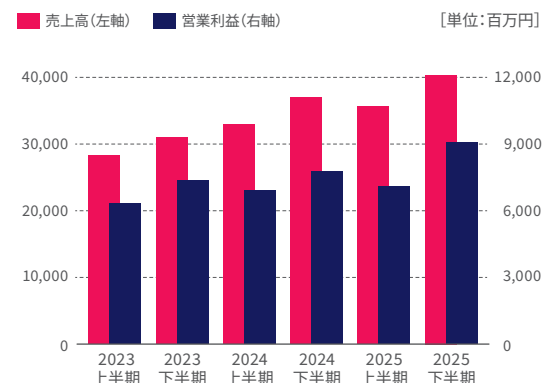
当社においては、「次世代バンキングシステム」が2行目において安定稼働を開始したことに加え、新規に3行の導入が決定し、プロジェクトは順調に進捗しています。また、フューチャーアーキテクトとの共同営業によるシナジーの発現によりリヴァンプの業績が成長しているほか、ITコンサルティング&サービス事業の各社が堅調に成長しました。

株主還元策

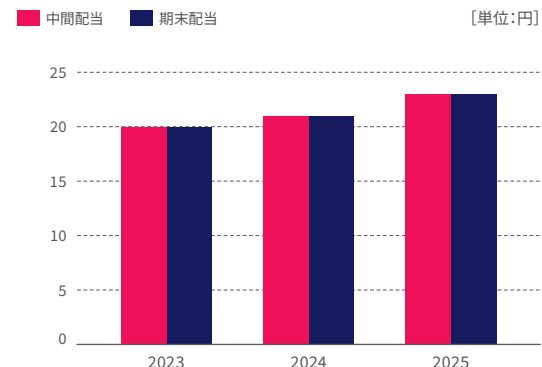
株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として位置づけ、持続的な成長を図るための内部留保資金を確保しつつ、期間損益、キャッシュ・フローの状況、自己株式の買付状況等を総合的に勘案して、連結の配当性向35%以上を目安に株主還元を実施しています。

この方針に基づき、2025年12月期の期末配当金については1株当たり23円とすることを決議いたしました。また、次期の配当金は1株当たり年間48円（うち中間配当24円）を予定しています。

[連結] 半期別業績推移



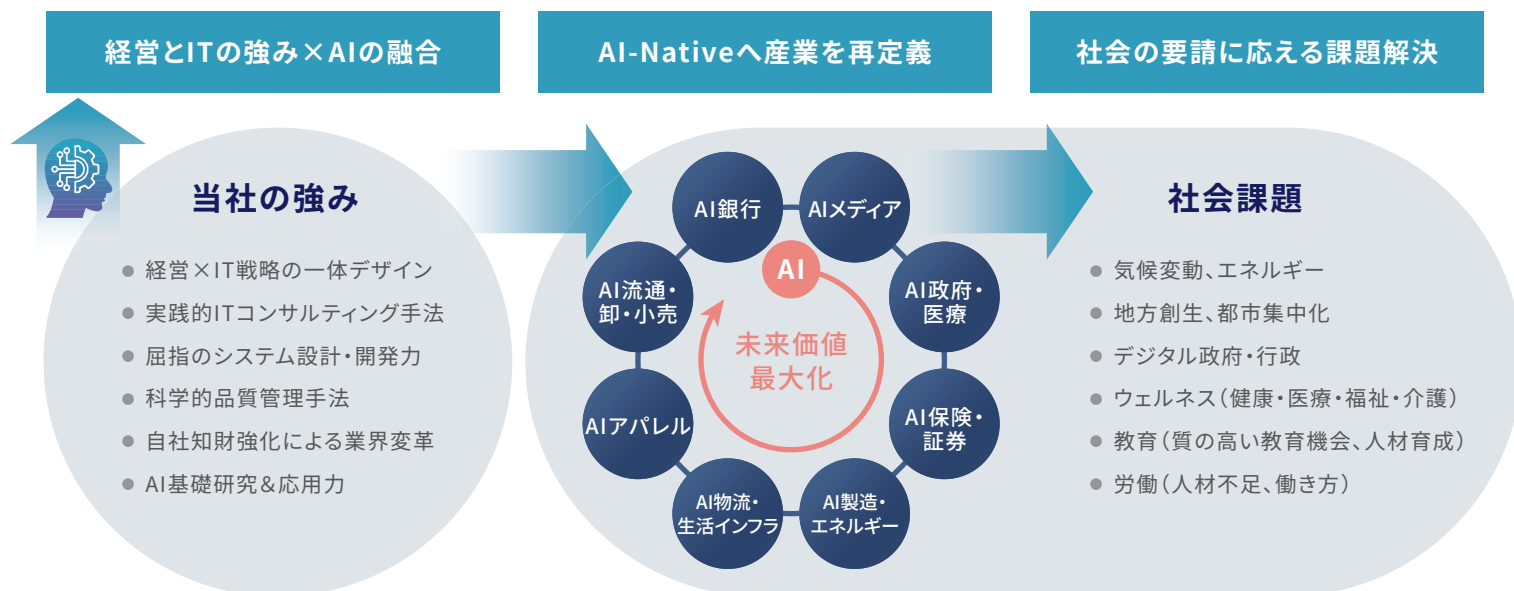
1株当たり配当金



経営とAIをデザインする、AI利活用と社会実装のNo.1カンパニーへ進化

AIの時代に、フューチャーはいかにして成長を続けていくのか。1989年に創業した当社は、汎用コンピュータからパソコンへのシフト、インターネットの商用化など、IT業界の大きな変化を取り込みながら、経営者のパートナーとしてビジネスのあるべき姿をデザインするコンサルティングスタイルを築き上げてきました。AI時代においても、AIの基礎研究と社会実装に取り組む専門チームを立ち上げ、企業の経営及び業務の改革に伴走することで新たな付加価値を生み出し続けています。

AIは当社の生産性向上にも寄与します。現在の年間のプロジェクト数は約200ですが、AI活用により生産性を3倍に向上させることで最大600のプロジェクトを推進することが可能になり、ビジネスや社会が直面するより多くの課題に向き合えるようになります。フューチャーは、AIの利活用と社会実装を迅速に推進することで、多様な業界や行政機関のお客様の未来価値最大化に貢献していきます。



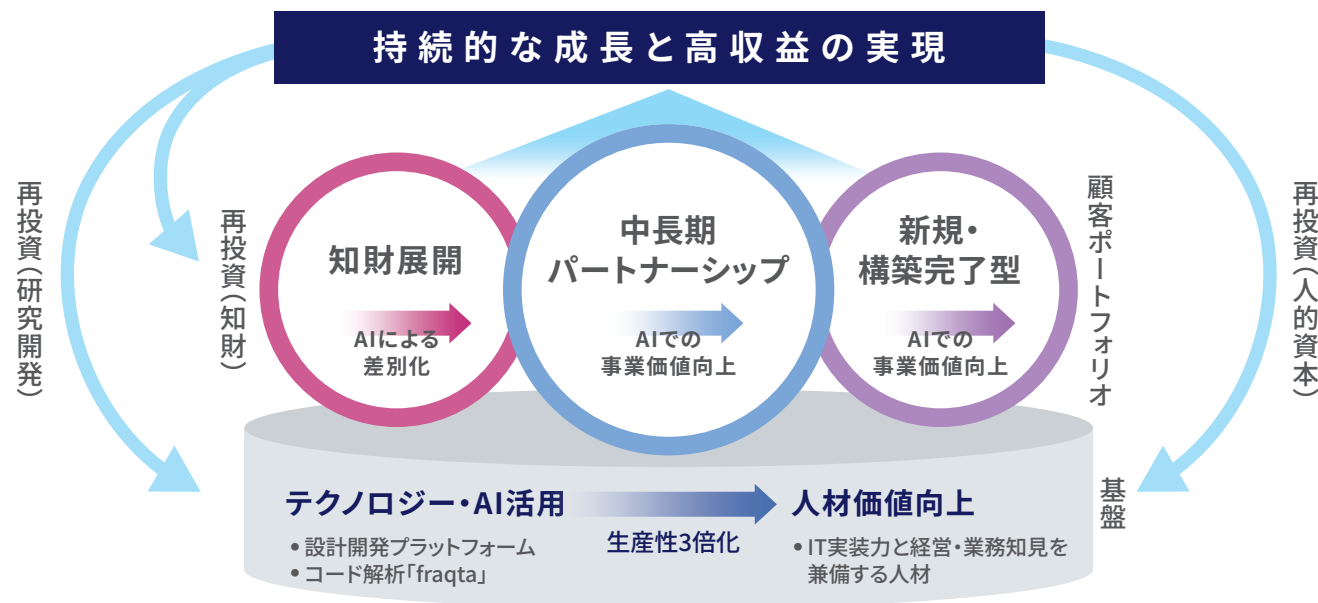
フューチャーの成長戦略

概要

AI活用による「持続的な事業成長」を実現する好循環モデルを確立

フューチャーは、「テクノロジー・AI活用による提供価値の増幅と人材の生産性向上を基盤とし、『持続的な事業成長』を実現する好循環モデルを確立する」ことを成長戦略としています。

その中心となる取組みが、「知財展開」「中長期パートナーシップ」の2つです。「次世代バンキングシステム」「FutureBANK」「FutureApparel」などの知財のさらなる高付加価値化を図るとともに、お客様のDX戦略共創からIT投資実行計画の策定まで支援することでより強固な信頼関係を築き、中長期的なパートナーシップへと発展させていきます。また、新規顧客に対しても、フューチャーアーキテクトとリヴァンプとの混成チームで営業やプロジェクト運営を行い、単発案件ではなく中長期的なパートナーシップの構築を目指します。



フューチャーの成長戦略

医療DX領域における事業拡大と社会課題の解決

フューチャーが成長戦略に掲げる「新規・構築完了型」の一例に、医療DX領域における社会課題解決の取り組みがあります。

現在の日本は超高齢社会であり、医療の持続性が問われる中、政府は「全国医療情報プラットフォーム」「電子カルテ標準化」「診療報酬改定DX」を3本柱とする医療インフラの構造改革を推進しています。当社は、2024年に「診療報酬改定DX」においてプロジェクトを立ち上げ、ここでの実績をもとに案件を拡大しています。医療DXの基盤構築を通じて、医療分野におけるコスト削減、精度向上、負担軽減に貢献するとともに、他の公共領域においても案件を拡大していきます。

④ 医療インフラの「構造改革」

政府推進の医療DXは、
「超高齢社会の医療持続性」を担保する根本的解決策

医療DX3本柱

1

全国医療情報
プラットフォーム

患者・診断情報の標準化、
場所を問わず最適医療を提供する体制整備

2

電子カルテ標準化

- ・'25年 標準電子カルテα版
- ・'25年 病院情報システム等の刷新に向けた標準仕様策定

3

診療報酬改定DX

- ・'24年 共通算定モジュール
- ・'25年 レセプト請求支援機能

膨大な事務負担を削減、
医療職が本来のケアへ
専念できる環境創出

「医療DX令和ビジョン2030」工程表のもと、中核2領域を新たに獲得

④ 医療DX基盤の構築を推進

共通算定モジュール・レセプト請求支援機能を開発
全医療機関・ベンダー利用の標準システムを実装

社会インフラとしての提供価値

コスト削減



改修コストの大幅削減

ベンダー個別改修を撤廃。
共通モジュール更新のみで
保守費用を抑制

精度向上



算定精度の完全統一

国(支払基金)共通ロジックで
過誤・返戻を解消。
「正しく請求できる」を担保

負担軽減



事務負担の劇的軽減

月末・月初レセプト点検作業を
自動化。事務員の残業時間を
削減し、本来の業務ヘンフト

制度改定への確実な対応、データ活用による新価値の可能性

フューチャーの成長戦略

テクノロジー・AI活用 ①

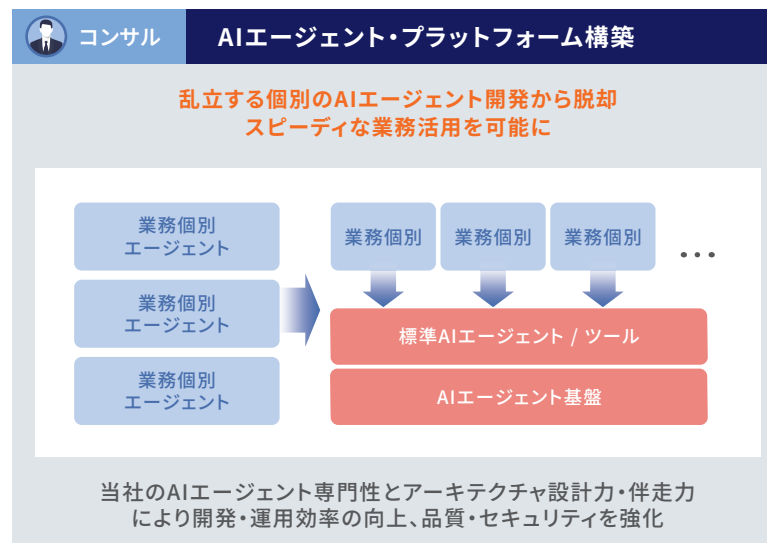
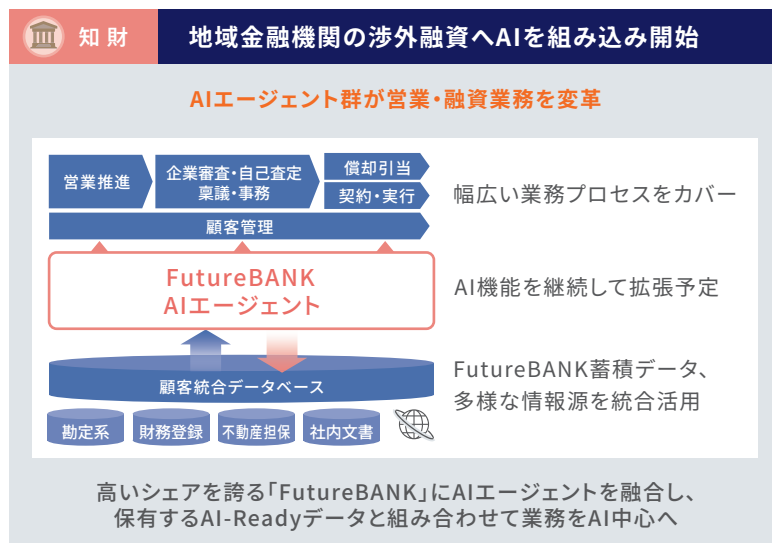
お客様のビジネスにおいて、経営とAIのデザインを拡大

フューチャーは、お客様の業務プロセス全体をAIネイティブにデザインしてシステムに実装する取組みを加速させています。

知財の分野においては、群馬銀行様と共同で渉外融資業務にAIを組み込むための検証を進めており、融資に携わる行員の業務時間を大幅に短縮しました。さらに、地域金融機関におけるAI活用を強力に支援すべく、検証で得られた知見を複数のAIエージェントとして「FutureBANK」に実装しています。

また、AIエージェントの利用を積極的に進めるお客様が増加する一方、業務部門が個別に利用しているため全体像が見えない、利活用が進まない、セキュリティが心配というような課題に直面するケースも増えています。このようなお客様に対し、当社は全社で共通利用できるAIエージェント・プラットフォームを提供するとともに、お客様に伴走しながらAI活用の推進を支援しています。

業務単体ではなく業務プロセス全体の拡大、AIアーキテクチャを含めた本格的なデザイン・実装へと発展



フューチャーの成長戦略

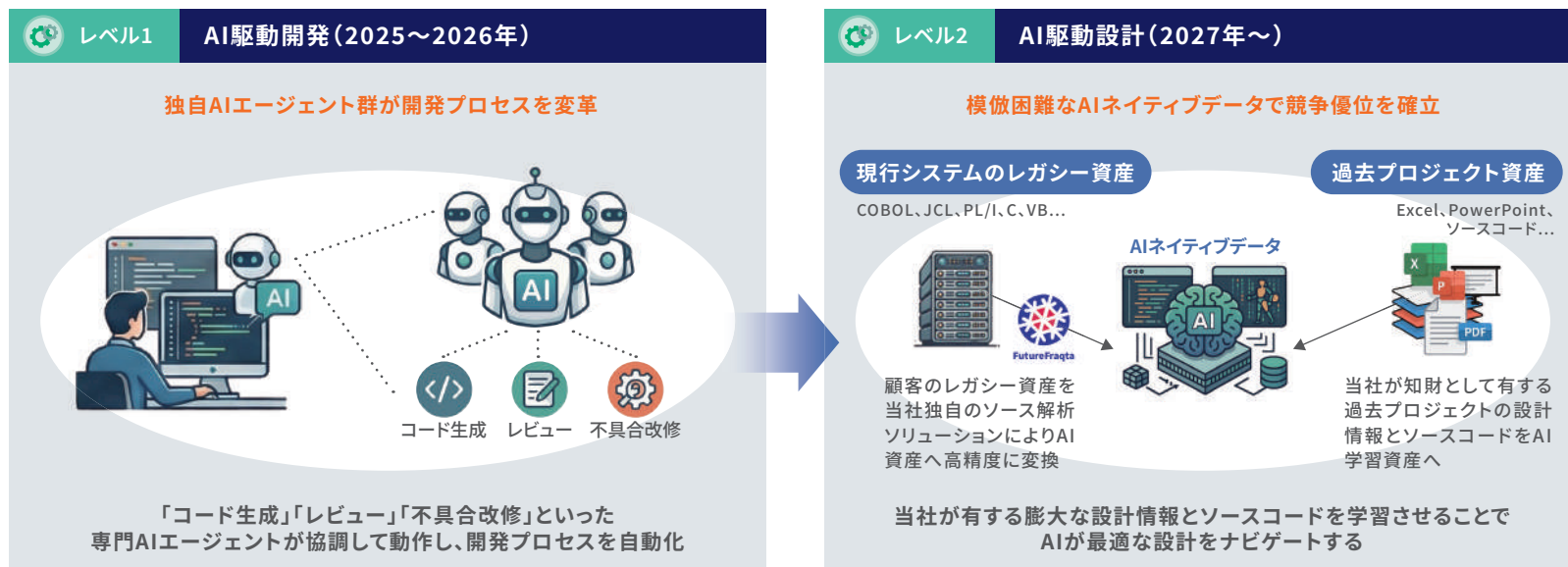
テクノロジー・AI活用 ②

開発プロセスの再定義による圧倒的競争力の確立

フューチャーは、設計開発支援ツールと専用LLMの連携によって開発プロセスを再定義し、設計及び開発プロセスにおける生産性を3倍に向上させようとしています。

第一段階として、2025年からAI駆動開発を開始しました。「コード生成」「レビュー」「不具合改修」などを行うAIエージェントを独自に開発し、これらが協調して動作することで開発プロセスのさらなる自動化を図る取組みを推進しています。2027年以降は、第二段階としてAI駆動設計を推進し、模倣困難なAIネイティブデータで競争優位を確立していきます。さらに、当社が知財として有している膨大な設計情報とソースコードを学習させることで、AIが最適な設計をナビゲートする取組みも進めています。

設計開発支援ツールと専用LLMを連携させることで、設計・開発の生産性を従来の3倍に引き上げる





「D&I AWARD 2025」において「D&I AWARD賞」を受賞

**多様な人材一人ひとりが個性を活かし活躍することで、
お客様の未来と社会に新たな価値を創造**

フューチャーは、株式会社JobRainbowが主催する「D&I AWARD 2025」において、「D&I AWARD賞」を受賞しました。「D&I AWARD^{※1}」は、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)に取り組む企業を認定・表彰する日本最大のアワードです。企業のD&Iにおける「ジェンダー」「LGBTQ+」「障害」「多文化共生」「育児・介護」の5つの取組み要素から100項目の独自指標でダイバーシティスコアが採点され、スコアに応じた認定が授与されます。当社が受賞した「D&I AWARD賞」は、認定企業の中でも、ダイバーシティスコアが高く、かつ企業規模に応じたロールモデルとなる取組みを実施している企業10社に授与されました。

フューチャーでは取締役が推進役として「DE&I推進委員会」を率い、経営陣がオーナーシップを持ってダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)に取り組むとともに社員の有志によって部門横断の「DEIタスクフォース」が立ち上げられ、全社員が多様性を考えるための企画やイベントが自発的に行われています。「自分たちの環境は自分たちでつくる」を核に、トップダウンとボトムアップの両方向により全社でDE&I活動を推進しています。

また、キャリア形成においては、「グラデーションキャリアパス」というコンセプトのもと、多様な人材がそれぞれのチャレンジを

通じてキャリアを切り拓いていくことを推奨しています。社員の約95%が成果を評価基準とする「裁量労働制」で働いており、全従業員がリモートワークを活用できるほか、各自の事情に合わせたキャリア選択や時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を実現しています。こうした取組みにより、多様な人材が活躍できる環境を整え、年間昇格者率は男性22.9%、女性23.7%^{※2}と性差がありません。年間の育児休業取得率と取得日数の平均は、女性122%・384日、男性66%・106日にのぼり、管理職の男性が率先して育休を取得しています。

フラットな企業カルチャーのもと、さらなるジェンダーギャップ解消に向けて女性リーダーの育成にも注力しています。女性リーダーをネットワーク化する取組みとして、異業種勉強会を自ら企画・運営するなど、社外とも連携して仲間やロールモデルを発見する活動を推進しています。また、理系分野のジェンダーギャップ解消を目指して、女子中高生を対象としたセミナーを積極的に開催しています。現在は、障がい者雇用にも力を入れており、業務の習熟度を可視化する「マイスター制度」のもと、障がいのある社員自身がマイスターとして他のメンバーに指導することでモチベーション維持と生産性を向上させています。

※1 D&I AWARD <https://diaward.jobrainbow.jp/top>

※2 フューチャーのDE&I <https://www.future.co.jp/sustainability/diversity>

フューチャーの業績・財務状況



決算のポイント

連結貸借対照表

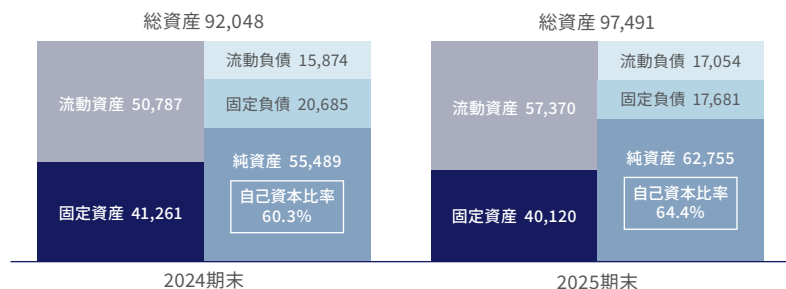
- 総資産は、売掛金及び契約資産の増加等により、前期末比5,442百万円増加
- 負債は、長期借入金の減少等により、前期末比1,823百万円減少
- 純資産は、利益剰余金の増加等により、前期末比7,265百万円増加

[単位:百万円]

	前連結会計年度末 2024年12月31日現在	当連結会計年度末 2025年12月31日現在
流動資産	50,787	57,370
固定資産	41,261	40,120
流動負債	15,874	17,054
固定負債	20,685	17,681
純資産	55,489	62,755
総資産	92,048	97,491

総資産の推移

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。



決算のポイント

連結損益計算書

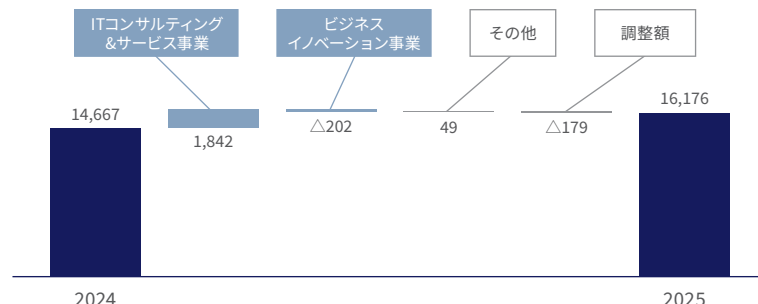
- ITコンサルティング&サービス事業は増収・増益、ビジネスイノベーション事業は減収・減益、連結全体の売上高及び営業利益、親会社株主に帰属する当期純利益は増収増益

[単位:百万円]

	前連結会計年度 自2024年 1月 1日 至2024年12月31日	当連結会計年度 自2025年 1月 1日 至2025年12月31日
売上高	69,878	75,993
売上総利益	33,700	36,987
販売費及び一般管理費	19,033	20,810
営業利益	14,667	16,176
経常利益	14,951	16,672
親会社株主に帰属する当期純利益	10,322	11,712

営業利益の増減要因

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

✓ 決算のポイント

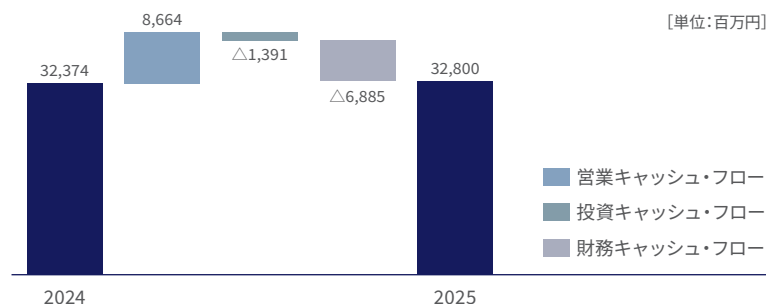
連結キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上等により、8,664百万円の収入
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により、1,391百万円の支出

【単位:百万円】

	前連結会計年度 自2024年 1月 1日 至2024年12月31日	当連結会計年度 自2025年 1月 1日 至2025年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,683	8,664
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,406	△1,391
財務活動によるキャッシュ・フロー	13,812	△6,885
現金及び現金同等物に係る換算差額	69	37
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	4,159	425
現金及び現金同等物の期首残高	28,215	32,374
現金及び現金同等物の期末残高	32,374	32,800

キャッシュ・フロー

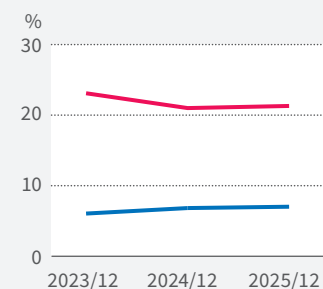


※現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。

● フューチャーの投資指標

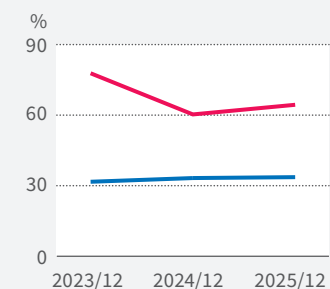
売上高営業利益率

— 当社(連結) — 東証プライム市場平均※



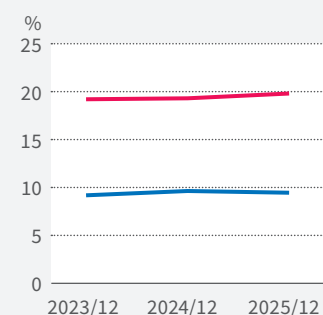
自己資本比率

— 当社(連結) — 東証プライム市場平均※



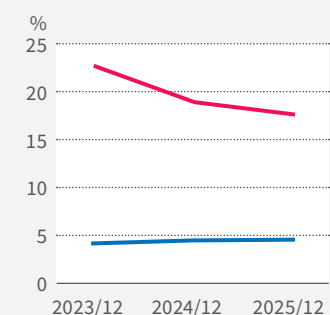
自己資本当期純利益率(ROE)

— 当社(連結) — 東証プライム市場平均※



総資産経常利益率(ROA)

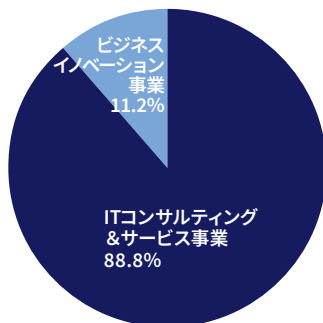
— 当社(連結) — 東証プライム市場平均※



※ 2023年3月期、2024年3月期、2025年3月期決算短信(非連結を含む)を発表した東証プライム市場上場会社のうち、変則決算会社・各期における新規上場会社・金融業に係る集計対象会社を除いた会社の平均値。
(出典:東京証券取引所統計資料)

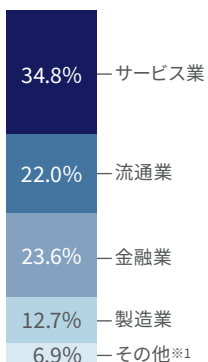
フューチャーのセグメント別業績・戦略

● セグメント別売上高構成比 2025年度



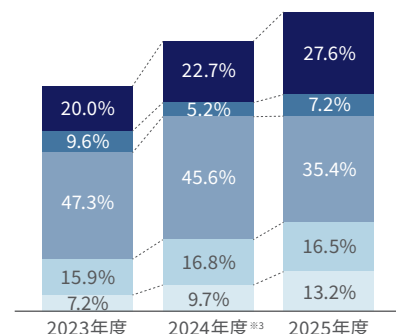
ITコンサルティング&サービス事業における業種別売上高構成比

2025年度



ITコンサルティング&サービス事業におけるフェーズ別売上高構成比推移

■ グランドデザイン (GD)、DXコンサル、経営支援
 ■ 設計 ■ 開発
 ■ 保守運用 ■ ライセンス・物販他※2



※1 「その他」は、官公庁・地方公共団体等への売上高となります。

※2 「ライセンス・物販他」は知財からのライセンス収入、IT機材の選定・調達・販売に係る売上等となります。

※3 2024年度の「グランドデザイン (GD)、DXコンサル、経営支援」に含めていたリヴァンプのシステム開発売上を「開発」に組み替えて表示しています。

● 2025 レビュー

ITコンサルティング&サービス事業

- フューチャーアーキテクトは、「次世代バンキングシステム」「FutureBank」「FutureApparel」など知財導入案件や政府主導の医療DXなどの大規模プロジェクトが順調に進捗したことに加え、DX戦略パートナーとして長期取引を見据えた新規顧客獲得が加速し、増収・増益となりました。
- フューチャーインスペースは、定常的な保守運用サービスや既存顧客のシステム基盤更改などが引き続き好調に推移したものの、大型の開発案件が終了した影響により、減収・減益となりました。
- FutureOneは、「InfiniOne」の鉄鋼業など業界特化型の営業展開による新規受注の拡大などにより増収・増益となりました。
- フューチャーアーティザンは、PLM (Product Lifecycle Management) 事業への本格参入などにより増収となったものの、グループ間での事業移管の影響などにより、営業利益は横ばいとなりました。
- フューチャーセキュアウェイブは、新規のセキュリティサービス案件の受注が増加したことなどから、増収・増益となりました。
- リヴァンプは、経営マーケティング事業及びDX事業が計画を上回ったことに加え、経営マーケティング事業において支援先の企業価値向上に伴う成功報酬売上を計上したことなどから、増収・増益となりました。

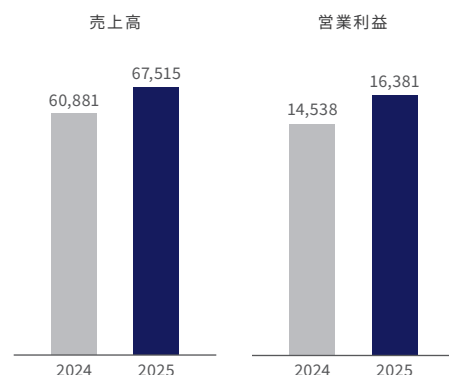
ビジネスイノベーション事業

- YOCABITOは、ナショナルブランドの販売品目絞り込みにより減収となったものの、プライベートブランドの販売が好調で、営業損失は縮小しました。
- 東京カレンダーは、コンテンツ事業の広告売上やイベント開催による収益に加え、「東カレデート」等のネットサービスによる収益が好調に推移し、増収・増益となりました。
- ライブリッツは、スポーツ界でのDX推進に寄与したものの、一部案件の品質向上にリソースを割いた結果、減収となりました。一方、コストの適切なコントロールにより増益となりました。
- キュリオシティは、ジュエリーブランドの大型ストアデザインの完了による反動で、減収・減益となりました。

2025 実績

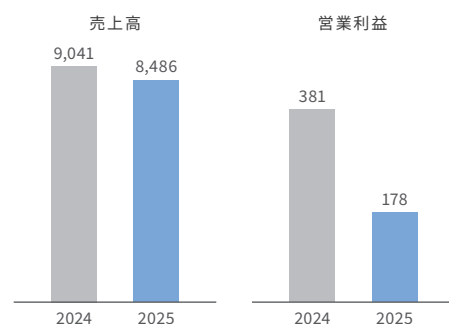
ITコンサルティング&サービス事業

[単位:百万円]



ビジネスイノベーション事業

[単位:百万円]



今後の見通し

ITコンサルティング&サービス事業

- フューチャーアーキテクトは、リヴァンプとの共同営業などグループ各社との協業を一層推進し、経営・ITコンサルティングを通じて顧客の経営課題解決に貢献する体制を強化し、経営改革を図る顧客からDXの推進を意識した新規案件を受注しました。中長期の成長戦略として、「DX戦略パートナーシップの拡大」と、「知財展開モデルの確立」を実行するとともに、人材の獲得や教育への投資、品質管理、プロジェクトマネジメントの強化に取り組めます。
- フューチャーインスペースは、高品質かつ安定的な運用保守サービスを提供するとともに、顧客基盤と信頼を強みに、高付加価値なシステム開発事業を拡大します。
- FutureOneは、「InfiniOne」の業界特化型の営業展開による受注拡大を図るとともに、製品強化にも努め、製販一体でのトータルソリューション提供を目指します。
- フューチャーアーティザンは、製造業向けDXコンサルティングや「Smart Factory」構築、「ESG経営共創サービス」などにより収益の拡大を狙います。
- フューチャーセキュアウェイブは、トータルセキュリティ運用を強みに、企業のセキュリティ課題の解決を包括的に支援する「SECURE WAVE Partner」サービスに注力し、収益拡大を目指します。
- リヴァンプは、経営マーケティング事業における既存案件の着実な遂行に加え、DX事業における既存顧客のグローバル展開支援案件の拡大を目指すとともに、投資先や海外先進技術企業との協業により新規顧客を開拓します。また、グループのリソースとノウハウを最大限に活用し、共同案件の創出などシナジーの拡大を図ります。

ビジネスイノベーション事業

- YOCABITOは、プライベートブランドの強化とコスト削減を進め、業績改善に努めます。
- 東京カレンダーは、ブランド力とユーザーエンゲージメントの向上を継続するとともに、AI等のテクノロジー活用による収益拡大を目指します。
- ライブリッツは、スポーツ界のDX及びAI活用を促進するとともに、AI技術を地域創生やエンターテインメント業界に広く展開することで、さらなる成長を図ります。
- キュリオシティは、プロジェクト規模の大きい高級ホテルなどのインテリアデザイン事業に注力するほか、世界的ブランドのストアデザインを顧客の世界展開に合わせて継続的に受注していきます。

会社概要 (2025年12月31日現在)

会 社 名	フューチャー株式会社
英文社名	Future Corporation
設 立	1989年11月28日
資 本 金	40億円
従業員数	3,624名(連結)

役員 (2026年3月26日現在)

代表取締役会長	金丸 恭文
取締役副会長	石橋 国人
代表取締役社長	谷口 友彦
取締役副社長	齋藤 洋平
取締役	神宮 由紀
取締役	山岡 浩巳
取締役	盛岡 美菜
取締役(常勤監査等委員)	市原 令之
取締役(監査等委員)	川本 明
取締役(監査等委員)	榊原 美紀
取締役(監査等委員)	竹内 明日香
取締役(監査等委員)	西浦 由希子

主要な連結子会社の状況 (2025年12月31日現在)

フューチャーアーキテクト株式会社
フューチャーインスペース株式会社
FutureOne株式会社
株式会社リヴァンプ
フューチャーアーティザン株式会社
フューチャーセキュアウェイブ株式会社
株式会社YOCABITO
東京カレンダー株式会社
ライブリッツ株式会社
株式会社キュリオシティ

他11社

主な事業所 (2025年12月31日現在)

本社	〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー TEL : 03-5740-5721 FAX : 03-5740-5820
名古屋オフィス	愛知県名古屋市中区
大阪オフィス	大阪府大阪市中央区
福岡オフィス	福岡県福岡市博多区
鹿児島オフィス	鹿児島県鹿児島市

株式の状況 (2025年12月31日現在)

発行可能株式総数 378,752,000株
発行済株式の総数 95,328,000株
株主数 6,473名

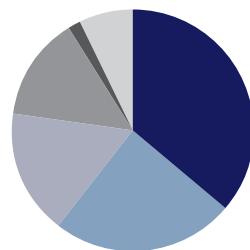
大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
合同会社キューエスト・ネットワーク	30,187	34.0
金丸 恭文	11,117	12.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,284	8.2
SGホールディングス株式会社	4,000	4.5
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,234	3.6
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,471	1.6
石橋 国人	1,236	1.3
フューチャー従業員持株会	1,187	1.3
モリヤマ ヒロシ	1,164	1.3
BNP PARIBAS LUXEMBOURG/2S/JASDEC/FIM/ LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	890	1.0

※1 当社は、自己株式を6,652千株保有していますが、上記大株主からは除外しています。

※2 持株比率は自己株式(6,652千株)を控除して計算しています。

株式の所有者別状況



● その他国内法人	34,616 千株	36.31 %
● 個人・その他	23,211 千株	24.35 %
● 外国人	16,041 千株	16.83 %
● 金融機関	13,202 千株	13.85 %
● 金融商品取引業者	1,603 千株	1.68 %
● 自己株式	6,652 千株	6.98 %

株主メモ

決算期 12月31日 期末配当基準日 12月31日
定時株主総会 3月 中間配当基準日 6月30日

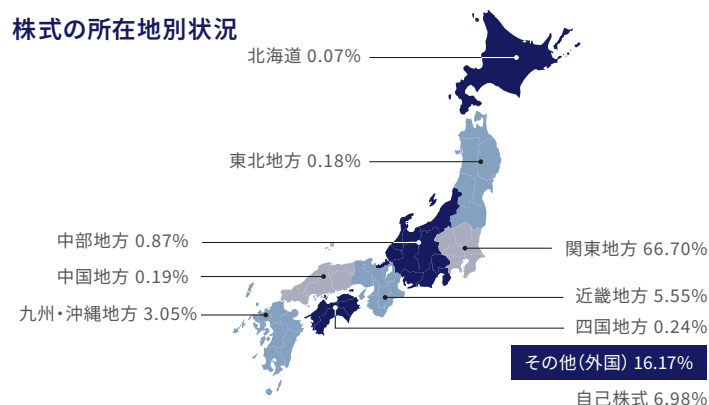
株主名簿管理人・ 特別口座管理機関

三井住友信託銀行株式会社
(連絡先・照会先)
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
フリーダイヤル:0120-782-031
ホームページ:
<https://www.smbt.jp/personal/procedure/agency/>

公告掲載URL

https://www.future.co.jp/investor_relations/notice/
ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合には、日本経済新聞に公告いたします。

株式の所在地別状況



ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

注意事項

本レポートには、現時点における情報に基づいた将来にかかわる予測が含まれております。それらは今後の日本経済やITサービス業界の動向などにより、変動する可能性があります。従って、当社がその確実性を保証または約束するものではないことも予めご承知おきください。

Future Report 2025

フューチャー株式会社

本社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2

<https://www.future.co.jp>

表紙写真: ジークスター東京

「ジークスター東京」は、フューチャーグループのジークスタースポーツエンターテインメント株式会社が運営・マネジメントするリーグH（日本ハンドボールリーグより名称変更）所属チームです。